



2022年9月14日

各位

会社名 サンバイオ株式会社
代表者名 代表取締役社長 森 敬太
(コード番号:4592 東証グロース)
問い合わせ先 執行役員経営管理部長 角谷 芳広
(TEL.03-6264-3481)

2023年1月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績値との差異 及び営業外費用等の計上に関するお知らせ

当社は、2022年3月11日に公表しました2023年1月期第2四半期累計期間(2022年2月1日～2022年7月31日)の連結業績予想と本日公表の実績値との間に差異が生じたので、営業外費用等の計上とあわせて、下記のとおりお知らせします。

記

1. 2023年1月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績値との差異(2022年2月1日～2022年7月31日)

| | 事業収益 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 四半期純利益 | 1株当たり 四半期 純利益 |
|------------------------------|----------|---------------|---------------|--------------------------|---------------------|
| 前回公表予想(A) (2022年3月11日公表) | 百万円 — | 百万円 △3,067 | 百万円 △3,168 | 百万円 △3,169 | 円 銭 △61.19 |
| 実績値(B) | — | △4,621 | △774 | △2,154 | △39.26 |
| 増減額(B)-(A) | — | △1,554 | 2,394 | 1,015 | |
| 増減率(%) | — | — | — | — | |
| (ご参考)前期実績 (2022年1月期第2四半期) | — | △3,052 | △2,146 | △2,134 | △41.21 |

2. 差異の理由

営業損失については、主に、SB623 慢性期外傷性脳損傷プログラムの承認取得に向けた製造関連の費用が膨らんだこと、また、米ドルの円安傾向による費用の換算差額が発生していること、商用生産用の貯蔵品を研究開発に使用することを決定し研究開発費に計上したこと等により、実績は上記のとおりとなりました。

経常損失については、当社連結子会社に対する外貨建て貸付金及び関連する債権に関し円安による為替差益が発生したこと等により、実績は上記のとおりとなりました。

親会社株主に帰属する当期純損失については、当社連結子会社に対する外貨建て貸付金及び関連する債権に関し繰延税金負債を認識したことにより、実績は上記のとおりとなりました。

詳細については、下記のとおりです。

① 営業損失の内容

2023年1月期第2四半期累計期間(2022年2月1日～2022年7月31日)において、4,621百万円の事業費用を計上しました。前回公表予想より1,554百万円増加となりましたが、これは、主には、SB623 慢性期外傷性脳損傷プログラムの承認取得に向けた製造関連の費用が膨らんだことによるものです。その他には、米ドルの円安傾向による費用の換算差額、商用生産用に貯蔵品として計上した部材を研究開発に使用することを決定したことによる484百万円の研究開発費の計上、コスト削減のため社内用ソフトウェアの開発を中止したことによる63百万円の費用の計上、によるものです。

② 営業外収益及び営業外費用の内容

2023年1月期第2四半期累計期間(2022年2月1日～2022年7月31日)において、為替相場の変動により為替差益が発生したため、営業外収益に為替差益3,879百万円を計上しました。これは、主に、当社連結子会社に対する外貨建て貸付金及び関連する債権に対し発生した為替差益になります。一方、同じ為替相場の変動による、連結子会社の外貨換算による為替換算調整勘定の変動額△3,836百万円を、その他の包括利益の調整項目としています。

また、営業外費用に、資金調達費用として取引銀行3行との貸出コミットメント契約に関わる手数料を18百万円、銀行からの借入に伴う支払利息を14百万円、それぞれ計上しました。

③ 法人税等調整額の内容

2023年1月期第2四半期累計期間(2022年2月1日～2022年7月31日)において、当社連結子会社に対する外貨建て貸付金及び関連する債権に関わる繰延税金負債を認識したことにより、法人税等調整額1,379百万円を計上しました。

なお、2023年1月期(通期)の業績については、2022年9月14日公表の「2023年1月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

以上